

会 議 録

会議の名称： 西東京市地域情報化計画策定審議会（第 1 回）

開催日時： 平成 13 年 8 月 29 日 午前 9 時 30 分から 11 時 30 分まで

開催場所： 田無庁舎 3 階庁議室

出席者： 委 員

岡田裕二、工藤由貴子、小舘香椎子、佐々井幹彦、富永英義、甕 昭男

矢内秋生（出席 7 名）（欠席：岡田和比古 柴垣代理出席）

事務局

市長、助役、坂井企画部長、尾崎企画課長、企画課坂本主査、企画課櫻井主査

櫻井情報推進課長、情報推進課青柳係長

傍 聴 2 名

議 題： 委嘱式、諮問、

会議資料： 別紙一覧のとおり

会議内容： 発言者の発言内容ごとの要点記録

会議の発言内容：

1) 市長あいさつ（要旨）

- ・ 地域情報化は新市建設計画の重点施策である。
- ・ 情報化の基本理念は、市民生活の利便向上、地域活性化、情報公開と協働のまちづくり、行財政改革の推進、と認識している。
- ・ 具体的には、高齢者福祉の充実、子育て支援の充実、学校教育インターネットの充実、SOHO 支援による産業活性化、に積極的に取り組みたい。
- ・ 国・都と施策の連携を図り、財政支援を活用する。
- ・ 行政内部だけではなく、地域の産・学、NPO や市民との連携、協働が重要である。

2) 委員委嘱・正副会長選出

会長 甕 昭男 委員 会長代理 矢内秋生 委員

3) 諮問

（別紙諮問書のとおり）

4) 会議の運営について

会議の公開等及び会議録の作成方法等については、別添資料のとおり承認。

5) 今後のスケジュールについて

資料 に基づき事務局説明。

資料のスケジュール案のとおり承認。

6) 資料説明

別紙資料に基づき西東京市の状況について事務局説明

7) 質疑・議論

（富永） 資料 10（西東京市行政ネットワークの概要）について、保谷庁舎と田無庁舎間のネットワークが構築された際の背景（体制、予算、運営費、経過や、それに対しての評価）を知ることがこの委員会の今後の作業の進め方に参考になると思う。

コミュニティーFM放送も大変興味深い、うまくいっているなら他の自治体に参考になるし、技術開発によって新しいメディアになる可能性もある、運用の実態を教えてください。CATVのネットワーク回線を行政情報の市民サービスには有効だと思うが、ADSL や NTT の光ファイバー（FTTH）との事業上の競合があり、考え方を整理する必要がある。コンピュータメカや通信事業者の営業に乘せられるのでなく、行政の効率化や市民サービスの立場で長期的な指針を持つことが肝要だ。情報通信システムの開発速度はとても速い、18ヶ月でコストパフォーマンス2倍になると言われている。運用形態も含めてシステムは持続的に（2年ぐらいで）見直す必要がある。行政機関は一度導入するとなかなか効率の悪いものを捨てられない。運用経費と構築経費の両方を総合的に考える必要がある。現状はどうなっていますか。

また、今後の市の体制はどう考えていますか。

(青柳) ネットワークやシステムの構築に関しては、従前はホストコンピュータを中心とする住民情報システムの構築を進めてきたが、平成10年度から計画的に高度情報化の観点から見直しながらシステムの構築を行ってきた。行政内部の情報化が一定規模進んだので、今後は地域に向けての情報化が課題と考えている。

コミュニティーFM放送に対しては、番組提供をしている。

ネットワーク回線については、コスト等を考慮して、NTTの回線、CATV回線等を使い分けている。

(富永) 予算内で収められているようだが、経費の配分はどのようなになっているか。

場合によっては古いものを捨てなければ逆に経費がかかることもあるので、システムによっては捨てることも必要である。そうでなければ使いにくいものを我慢して使わなければならない。

市民のインターネット普及はどの程度か知りたい。

(会長) インフラについて、市民がどのように考えているかを考慮していく必要がある。

(小館) 資料14（西東京市立小中学校インターネットの利用状況）について、学校に配置されているメールアカウント数、パソコン台数が思ったより非常に少ない。他団体の話だが、先生は自宅でインターネットを利用して教材を探しているという現状もあるようだ。学校でインターネットを利用できる環境を充実することを検討しているか。今後の予算の中にはこれらの施設への整備の分は入っているのか。

(尾崎) 審議会の考えをフィードバックし、検討していきたい。

(富永) 早い時期に整備をすることによって逆に時代から遅れてしてしまうこともある。

西東京市の学校のパソコン配置は、それでも全国的基準から見るとまだ進んでいるように思われる。

(柴垣) 学校インターネットの接続環境は常時接続か。

(青柳) CATVによる常時接続である。

(矢内) 情報化に関して、どのくらいの予算をかけてどのくらいの規模でやるのか。

(富永) 過去の投資額と今までの資源の活用に関する資料を事務局にお願いしたい。

(会長) 市の独自予算と国の補助との関係をどう考えるかだが、検討や考え方にもよるが、官民共同体制や国との連携も考えてみてはどうか。

- それは、また次回のテーマにし、今回は、フリーディスカッションを行ないたい。
- (矢内) 資料 10（西東京市行政ネットワークの概要）に関して、両庁舎の現状について市はどのように考えており、システムなど一本化する考えはないのか。この件は、本審議会の守備範囲なのか。
- 基本的な市の考えとしてあらかじめ方向性が出ているのか？
- (櫻井) 合併にあたり、旧田無市のシステムをベースに構築し、システム統合をしている。平成 15 年のシステム機器のリース満了まではこのような状態が続く。
- (富永) 住民情報などはひとつのシステムに統合しているのか。それらのシステム統合は業務委託で進めてきたのか。
- 一度、システムが確立してしまうと新しいことをなかなか導入できなくなってしまう。行政は楽かもしれないが、それを断ち切るのが審議会の役割と認識している。
- (尾崎) 基本的にはシステムは一つに統合しているが、合併に際して、両庁舎のシステムをそれぞれ有効活用する方針で進めてきた。
- (岡田) 合併後のまちとしてネットワークをどう使っていくのか、ハードや、ソフトなどを紹介しながら考えていきたい。
- (会長) 高速化する情報化社会の背景を考慮し、ドラスティブに考える必要もある。委員の皆さんに先進的な事例などを紹介していただき、それをベースにディスカッションをお願いすることとしたい。
- (工藤) 市民の方がどの程度システムにアクセスしているのか、将来的にどのくらいのニーズがあり、どのような方向性を望んでいるのかに関心がある。高齢化あるいは少子化等に関して先進的に構築されているネットワークもあり、その辺を現在の西東京市のシステムにも取り入れてはどうかと思う。
- グループ・ディスカッションなどいろいろな市民の方の意見を聞く場を設けてはどうか。
- (尾崎) 公募の市民で構成する「まちづくり市民会議」を有効に使い、情報化の政策に対する考えを聞いていくことも考えられる。13 年度では困難と思うが、14 年度では十分可能と考えられる。検討させていただきたい。
- (佐々井) 都で「電子都庁」の計画に携わった。その経験からみると IT ありきで検討すると失敗する。IT は形から入りやすいが、IT をツールとして使い、効率化をはかり、浮いた時間を質の高い市民相談等のサービス向上に向けることが「IT を活用したサービスの向上である。」といった認識が必要である。情報化の目的、問題意識をどこにもつのかを追求していくことが必要である。情報化の目的、コンセプトを明かにすることが重要である。
- (会長) 市の推進本部で議論することになるだろうが、都の事例など参考事例を出していただければありがたい。
- (富永) 今回の審議会の目的をもう少しはっきり認識したい。
- 市民に対してどのような行政サービスをしていくのか、いかに費用をかけないでサービスを向上させていくのか。そこから目的をはっきりさせることが大切である。
- 「情報包み紙論」で言えば、例えば使い捨てカメラが欲しいのではなく、中にあるフ

イルムが必要なのであり、それはPCやネットワークにも当てはまる。高いコンピュータを買ってもろくなサービスを提供できなければ無意味なものになる。中身自体を充実させていくことが必要である。

庁舎の有効活用というが2倍の費用がかかっているのではないか。有効活用を図っているつもりがそうではない結果になってしまうことがある。

(小館) 情報化に基づいた行政サービスをするにあたって、どのくらいのニーズが有るのかを把握することが必要である。デジタルデバイドが発生してしまう。情報サービスに偏ってしまうと、生活する上での問題点(ごみの問題、道路のカーブミラー、街灯の設置等)のほうが必要と思われることもある。情報化のコンセプトが大切である。それに対する双方向の理解ができればいいと思う。

(会長) 市民との意見交換も事務局で集約してもらいたい。
本日は、ここまでとします。

次回の日程：

平成 13 年 10 月 3 日(水) 午前 9 時 30 分～

(a)先進事例、(b)情報化に関する調査、(c)14 年度事業について